

第2次千葉市文化芸術振興計画 1次評価シート

基本施策名	基本施策2_文化を創造する人材を「育てる」		
	(3)文化芸術活動を支える人材の育成		
事業名	市民文化育成事業・アウトリーチ事業（若葉文化ホール） 特別支援学級サポートプログラム「パラステ3」		
実施主体	指定管理者	（名称）ちばアートwind運営企業体	
市との関わり	その他	企画提案業務	指定管理者
市担当課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課		（連絡先）245-5961（内）90-2526

事業概要	開始年度	2016年			
	事業費	(予算) 市： 390,000	その他： 0	(決算) 市： 215,855	その他： 0
	内容	千葉市立北貝塚小学校（若葉区）、千葉市立千城台北小学校（若葉区）特別支援学級の児童に対し、アート系ワークショップ（和紙アート）を、講師に海外でも活躍する和紙作家：石渡真紀氏を迎え、アウトリーチの形で実施。			
	目的	障がいを持つ児童に対し、多種の芸術文化に触れる機会を創出し、児童の持つ可能性を広げる			
	目標	(数値) 無 ※数値目標を設定する事業ではないため		(昨年度)	
	ねらい	<p>(対象) 千葉市立北貝塚小学校、千城台北小学校、特別支援学級児童（1年～6年）</p> <p>(求める効果) 活動時に様々な制約のある特別支援学級の「障がいを持つ児童」に対し、文化芸術に触れる機会を作ることを目的とし、日常で触れることが少なくなった和紙という日本文化に触れてもらうことで、日本を再認識してもらう。個々にアート作品を製作することで、発想力と創造力を養う。 1年生から6年生を一堂に会し、製作作業を行うことで下級生へのサポートなど、チームワーク、連帯の必要性を実感してもらう。</p> <p>(アプローチ方法) 石渡真紀氏というアメリカでの教師経験を持ち、サンディエゴなど海外での個展も行っている和紙作家を招き、蓮の花托をベースにし、細長く切ったり、手で割いた和紙を花托の穴に差し込む形で、児童に手作りの「和紙の花」を製作させた。北貝塚小学校では、和紙への貼り絵でランタンシェードも合わせて製作した。 和紙の原料である楮の原木の一部を教室に持込、皮の部分をめぐり児童に手で触れてもらうことで、紙の原料が木であることを理解してもらった。</p>			
	実績	<p>開催日程：2019年12月3日（火） 会場：千葉市立千城台北小学校・わかば学級教室 参加人数：児童17名、担任教師3名</p> <p>開催日程：2020年1月17日（金） 会場：千葉市立北貝塚小学校・えがお学級教室 参加人数：児童13名、担任教師3名</p> <p>実施内容：和紙を使ったアートワークショップ</p>			
	情報発信	<input type="checkbox"/> 市政だより <input type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> ポスター・チラシ <input type="checkbox"/> フェイスブック・ツイッター <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 対外告知無 ）			

【評価指標】 4：妥当、3：ほぼ妥当、2：工夫により改善、1：見直し

1 基本施策との適合	(1) 妥当性	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 芸術体験の機会が少ないと思われる特別支援学級の児童に特化したアート系ワークショップを行うことは、貴重な機会であり、障がいを持つ児童を対象とした事業は、千葉市内施設でも実施例が少なく、基本施策2_文化を創造する人材を「育てる」に対し妥当であると考え。
	(2) 達成度	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ワークショップの冒頭、原料である楮（こうぞ）の現木を用意し、それぞれに楮に触れてもらい、木から紙が生まれることなど「和紙」という文化の理解を促した。そして、それぞれの児童が、規定された2時限のワークショップの中で、多くが担任の手を借りずに個々に自身の作品を完成させることが出来た。また、作業の早い高学年の児童が、低学年の児童のサポートを行う姿も確認出来、目的を達成出来たものと考え。
	(3) 波及		(評価の内容) 対象を市立小学校としており【基本施策1：芸術文化に親しむ市民の裾野を「広げる」(2)参加・体験活動の促進】【基本施策3：文化芸術を育む場を「支える」(1)文化芸術活動の場の充実・文化施設以外の場の活用】【基本施策4：千葉文化の担い手を「つなぐ」(2)多様な協働・連携の促進】にも相当する活動であると考え。
2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	(1) 市民主体	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 千葉市立小学校の特別支援学級児童を対象としており、100%市民参加の事業となっている。また、アウトリーチ事業と連動する形で実施しており、若葉区内で特別支援学級の児童数の多い北貝塚小学校、千城台北小学校の2校と連携を行っている。 一方、若葉区内でも特別支援学級児童数が少数の小学校、初年度に担当教諭に当事業への関心を寄せて頂けなかった学校に対しサポートが行われていない部分は課題であると考え。
	(2) 子ども・若者	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 対象が特別支援学級1年生から6年生の児童であり、100%適合している。
	(3) 領域の広がり	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 近年、大人でも触れることが少なくなった和紙という日本文化を代表する素材を扱うことで、児童に対し、日本の伝統文化に触れる機会を提供出来た。 児童ひとりひとりが自身の作品を自分の力で創作する機会を提供することで、基本施策2_文化を創造する人材を「育てる」の目的を果たしていると考え。

3 事業のねらい	(1) 妥当性	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 基本施策2_文化を創造する人材を「育てる」を考えた時に健常者を対象とする事業・企画が一般的な中で、対象を「障がいを持つ児童」とすることは、非常に重要なことであり、継続的に実施すべき事業・企画として妥当であると考えます。
	(評価に関連する数値等)		
	(2) ア ブ ロ ー チ	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 第一回目：絵画（個別製作）、第二回目：丸シールアート（共同製作）、今回：和紙アート（個別製作）と、アート作品の製作にあたり、児童が楽しめるワークショップを、毎回、異なった新たな内容で企画している。 講師の人選にあたっては、それぞれの分野で活躍し、「障がいをもつ児童」への機会提供に理解を持ち、積極的に参加してくれるアーティストを選抜している。
	(評価に関連する数値等)		
4 市民との関わり	(1) 満足度	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 両校共に、昼休みを挟んでの2時限で実施であったが、1コマ目の終了時に、続けたいという児童が多く、ワークショップへの興味と関心の高さを見せた。終了後の感想は、「楽しかった」「面白かった」「またやりたい」という声が聞かれた。千城台北小学校では、ワークショップ終了後、次の授業に行った児童と担任が、片づけを行っている教室に戻って来て、講師にお礼の歌のプレゼントを行ってくれたことから満足度が伺える。
	(評価に関連する数値等)		
	(2) 周知度	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 特別支援学級の児童を対象としたクローズドの事業のため、事業の広報活動、事後報告等は行っていないが、事業の目的と内容から問題ないと考えます。
	(評価に関連する数値等)		
5 効果	(1) 活動の活性化	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 2017年は実施を見送ったが、年1回のワークショップ開催により、児童が、様々なアートに触れる機会を得ることで、楽しさの中から芸術文化への関心を深める第一歩になったと考える。
	(評価に関連する数値等)		
	(2) 費用対効果	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 市の予算のみで実施している事業であるが、特別支援学級の児童に、学校の予算では企画出来ないワークショップによる芸術文化に触れる機会を提供し続けることは重要であり、適正な費用であると考えます。 一方、本事業に関心を頂きながら特別支援学級児童数が少数の小学校（白井小学校、千城小学校）に対して、費用面からサポートを行うことが出来ない現状も今後の課題であると考えます。
(評価に関連する数値等)			
	(3) その他の効果		(評価の内容) ※上記(1)(2)以外の効果があった場合のみ記載（地域活性化等なんでも可） ・本年度は、製作した「和紙の花」を児童から保護者へのプレゼント（講師並びに担任によりラッピングを行った）とし、家族間のコミュニケーションにも寄与したと考える。 ・市立小学校（若葉区）と継続的に連携を行うことにより、千葉県若葉文化ホールの活動に対する小学校の認知を深めて頂くと共に、学校との間で築かれた信頼関係により、障がいを持つ児童への継続サポートが可能となっている。
	(評価に関連する数値等)		